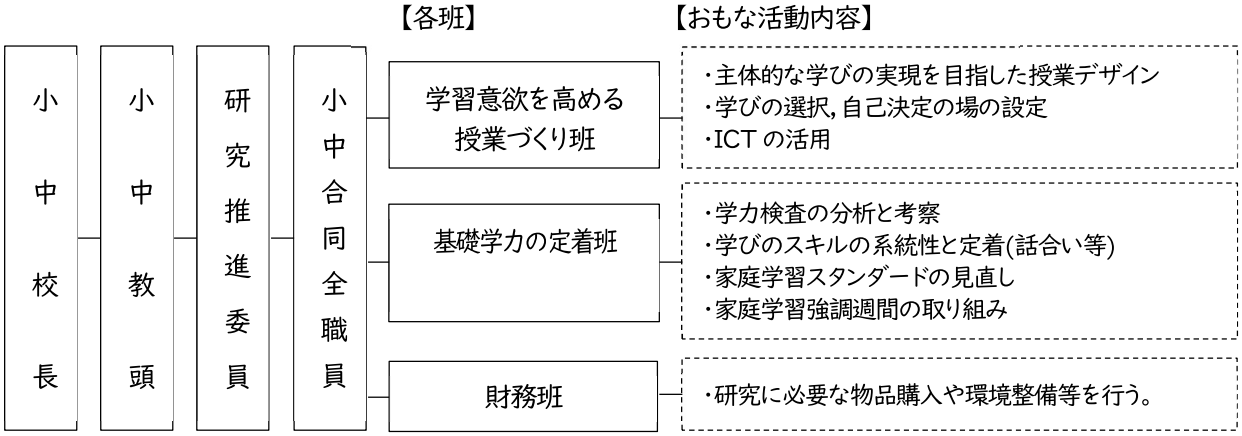
令和7年度 小中合同研修まとめ

吉田北中・吉田小 研修係

1 研究主題

一人一人に確かな学力をつけるための連続性のある教育活動の実践
～個別最適な学び，協働的な学びの実現に向けた小中連携～

2 研究組織



3 本年度の取り組みに対する成果と課題　　○成果 △課題 ◆意見

① 学習意欲を高める授業づくりを図る活動・取り組み

・ 中学校の先生方による，小学校テーマ研修提案授業の参観，及び，授業研究への参加(6月23日)
・ 合同研究授業・授業研究の実施(9月18日，10月27日)
・ 授業研究における IR(Instructional Rounds)研修の実施

〈共通実践事項〉
★ 授業の中で，児童生徒が自己選択・自己決定する場を意識して設ける。
①「めあて・課題」の選択　②「道具・活動」の選択　③「解決方法・考え方」の選択　④「学習形態・スタイル」の選択　⑤「学習時間・ペース」の選択
★ 児童生徒が自己選択・自己決定できるための素地となる学習経験を積ませる。

〈研究授業・授業研究について〉

○ 小中互いの研究授業を参観し，授業研究を行うことで，各校の実態を知るとともに，よりよい授業づくりについて，共に考えることができた。

〈IR 研修について〉

○ 特定の児童生徒を集中して観察し，その「困り感」や視点に立って手立てを考える手法により，教科や校種の枠を超えた具体的な改善策の協議が可能となった。

○ 「学習者主体の授業」を意識する視点の転換において，大きな刺激となった。

〈共通実践事項について〉

○ 授業内で「めあて・課題」「道具・活動」「解決方法」「学習形態」「学習ペース」の 5 項目において，児童生徒が自己選択・自己決定する場を意識的に設定した。

◆ 子どもたちが自ら考え進めていく学習形態を繰り返し経験することは，学び方の習得やその後の学習への意欲につながっていく。

◆ 小中学校で共通した実践を行うことで，子どもたちの学びの積み重ねができ，安心して学びに集中できる。

② 基礎学力の定着を図る活動・取り組み

・ 家庭教育スタンダードの見直し
・ 家庭学習強調週間のチェックカードの作成と見直し
・ 小学校の話合いカードの紹介と活用（中学校）

〈共通実践事項〉
★ 学期末の学級 PTA で，「家庭教育スタンダード」を振り返る時間を設ける。
★ 中学校のテスト期間に合わせて，「家庭学習強調週間」を実施する。
★ 家庭での学習時間の確保を図る。
★ 授業や家庭学習の中で，習熟の時間を設ける。（ICT 活用も含む。）

〈家庭教育スタンダードについて〉

○ 学級PTAでの振り返りを通じて，保護者への意識付けが進んだ。特に，小中両校に子どもをもつ世帯において，共通のスタンダードがあることは，取り組みやすさにつながった。

△ 家庭による取り組みの温度差が大きく，効果の判定が難しい。

〈家庭学習強調週間について〉

○ 自分自身で家庭での時間の使い方を確認することで，今の自分の現状をしっかりと把握することができた。

△ 中学生において，生活リズムの乱れ(就寝時間など)が学習習慣の欠如に直結している。

◆ 宿題を増やすことよりも，一人一人に合った学習内容の構築や，ゲーム・インターネット利用などの時間管理能力を育てる必要がある。

◆ 家庭学習も学習者主体の学びとなることを根気よく説明し，家庭からも協力を得られるようにしていく必要がある。

〈共通実践事項について〉

◆ 学習内容を，いかに定着につなげるかが今後の焦点である。

◆ 語彙力の向上や，「書く力」の育成など，9か年を見通した指導の必要性がある。

③ 小中連携授業参観週間

5月27日～5月30日	小学校が中学校を参観
11月4日～11月7日	小中相互参観
1月19日～1月23日	中学校が小学校を参観

○ 小学校教員が卒業生の成長を確認し，中学校教員が小学校の丁寧な基礎指導を学ぶ貴重な機会となった。

△ 小学校側では，空き時間がほとんどないため，中学校への参観が物理的に困難である。

△ 見たい教科と自身の授業が重なるなど，スケジュールのミスマッチが継続的な課題となっている。

4 次年度に向けての考察

本年度の研修成果を踏まえ，次年度は，以下の取り組みの充実を図っていく。

① 継続的な授業研究

・ IR研修を継続し，小中相互の授業参観を通じて，よりよい授業づくりを深化させていく。

② 9か年を見通した基礎学力の育成

・ 「読み・書き・計算」を中心とした国語・算数(数学)の基礎学力向上に注力する。
・ 学年ごとの到達ゴールを明確化し，小中が連携した具体的な取り組みを策定する。

③ 家庭学習の質的改善

・ 単なる時間の確保だけでなく，個に応じた学習課題の提供やマイゴールチャレンジの取り組みを充実し，生活リズムの改善を含めた保護者への啓発活動を継続する。

令和7年度 小中合同研修まとめ：9か年を見通した「確かな学力」の育成

吉田小学校

授業改善と「主体的な学び」の実現

自己選択・自己決定の場の設定

選択の対象	具体的な内容
内容・方法	めあて、課題、解決方法、考え方の選択
環境・ツール	運具、ICT、活動場所の選択
形態・ペース	学習スタイル（個人・グループ）、学習時間の選択

IR（Instructional Rounds）研修の導入

特定の児童生徒を集中して観察し、子供の目線で具体的な授業改善策を考察。

小中相互参観による連携強化

他校種の授業や実態を知ることで、9か年を見通した指導の視点が得られた。

吉田北中学校

基礎学力の定着と家庭学習の習慣化

「家庭学習スタンダード」の共有

小中共通基準

小中共通の基準をPTA等で周知し、保護者の意識づけを図った。

読み・書き・計算の系統的指導

算数・国語の基礎力を養うため，次年度は学年ごとのゴールを設定する。

家庭学習強調週間の実施

中学校のテスト期間に合わせ，小中合同で，学習時間の確保に取り組んだ。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指し、次年度へ向けて連携を深める。

NotebookLM